



2026年 8月25日
第24号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

8月25日号

今年（2026年）の8月15日は、戦後81年目の終戦の日でした。戦争の体験者が減少する中で、政治と国民がそれぞれのように歴史に向き合い、平和を形づくっていくべきか「政治のあり方」と「国民一人ひとりの向き合い方」は、互いに影響を与え合いながら歴史の記憶をどのように未来へつなぎ、平和への想いを更新していくか日本の未来の姿を捉え返す日です。

現代はSNSやメディアを通じて一方的かつ感情的な言論が拡散しやすい環境にあります。事実に基づいた冷静な歴史観と国際情勢への理解を養うことが必要です。

日本政府は、理解深まる議論無く台湾有事を煽り、防衛力の強化を推し進めています。「専守防衛」の精神や平和憲法の理念を形骸化させず、加害と被害の双方を含む歴史的事実を真摯に受け止め、政治が判断を誤らないために、私たちが主権者として選挙での投票またその後の関心を持つことが鍵を握ります。

私たち一人ひとりが「無関心」や「他人事」にならず、自律的に思考すること。空襲や原爆投下、沖縄戦など自国が被った惨禍を悼むだけでなく、当時の社会がなぜ戦争を選び、どのような犠牲を生んだのかという構造的・歴史的背景を学び、広める不断の努力が二度と繰り返さないための教訓となります。

私たちにできることからスタートしよう。語り部が少なくなる中、体験者や地域に残る記録・手記、デジタル資料等に自ら触れる機会をつくること。また、家庭や職場などで「平和の尊さ」や「戦争の現実」について日常的な対話を絶やさないこと。何よりもアクションを起こすこと。

9条連ニュースの購読、そして19日行動へ行こう！
(M・K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。